研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-72C		21-082	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Associations between Alcohol Consumption Patterns and Risk of Multiple Myeloma: A Nationwide Cohort Study in South Korea

アルコール摂取パターンと多発性骨髄腫のリスクとの関連：韓国における全国規模のコホート研究

執筆者

Jeon KH, Jeong SM, Shin DW, Han K, Kim D, Yoo JE, Choi T.

掲載誌

Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2022 Mar 1;31(3):670-678. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-21-0904.

キーワード	PMID
アルコール摂取パターン、多発性骨髄腫、コホート研究	34937793

要　旨

目的：修正可能な潜在的危険因子として、アルコール摂取と多発性骨髄腫のリスクとの関連については、依然として議論の余地がある。そのため、全国を代表する韓国のデータベースを用いて、週平均したアルコール摂取量と飲酒パターンが多発性骨髄腫のリスクに及ぼす影響について調査した。

方法：韓国国民健康保険データベースに収載されているデータのうち、2009 年および 2010 年の国民健康診断プログラムに参加した 40 歳以上の対象で、がん既往があるもの、受診後 1 年以内に死亡したものを除く 11,737,467 人を対象とした。Cox 回帰分析を用いて、週当たりのアルコール摂取量、飲酒頻度、1 回当たりの飲酒量に応じた多発性骨髄腫のリスクを算出した。

結果：対象者全体における飲酒者割合は 4,727,135 人（40.3%）であった。平均 6.8 年の追跡期間中に、6,981 人（男性 3,921 人、女性 3,060 人）が多発性骨髄腫と診断された。非飲酒者と比較して、すべての飲酒者は多発性骨髄腫のリスクが有意に低かった。多発性骨髄腫のリスクは用量依存的に低下し、軽度の飲酒者（アルコール量 0-15g/日）［調整後 HR（aHR）0.89；95%信頼区間（CI）,0.84-0.95］、中程度の飲酒者（アルコール量 15-30g/日）　aHR　0.83；95%CI 0.76-0.91）、重度の飲酒者（アルコール量 30g/日以上）（aHR 0.76；95%CI 0.69-0.85）であった。さらに、飲酒頻度および 1 回当たりの飲酒量は、いずれも多発性骨髄腫のリスクと逆相関を示した。

結論：この研究では、平均飲酒量と多発性骨髄腫のリスクには逆相関があり、飲酒頻度と 1 回当たりの飲酒量とでは、多発性骨髄腫のリスクへの相対的寄与に差がないと考えられた。